

SYLLABUS

2025



別府市医師会立別府青山看護学校

3 年課程

専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧に振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

小児看護学

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・看護師養成所教員経験		
目 的	小児看護の対象である子どもについて理解を深めるための成長・発達の特徴を学ぶことは欠かせない。さらに、少子高齢社会となった今、子どもを取り巻く環境は変化をしている。現代の家族の状況や保健・医療・福祉の動向や、子どもの最善の利益を守るための看護を学ぶことを目的とする。				
目 標				DP への対応	
	1. 小児と小児看護について基本的な考え方を理解する。 2. 子どもの成長・発達を理解し、小児各期の特徴に適した生活と養護を理解する。 3. 小児を取り巻く家族の状況と保健・医療・福祉の動向を理解する。 4. 小児が尊重される存在であり最善の利益を守るための考え方を理解できる。			DP 1 DP 1 DP 3 DP 5 DP 4	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	小児看護の特徴と理念について理解する		テキスト①	母性看護学概論 第 5 回目授業
	授業予定	1. ガイダンス 2. 小児医療・小児看護の変遷と課題について説明する。 3. 小児と家族の諸統計について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	子どもの成長・発達について理解する（1）		テキスト①	
	授業内容	1. 子どもの成長・発達の原理と影響因子について説明する。 2. 機能的発達と心理社会的発達について説明する。 3. 子どもの成長・発達のアセスメントと評価について説明する。 4. 小児看護における理論について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	子どもの成長・発達について理解する（2）		テキスト① 胎便モデル 新生児人形	母性看護の方法Ⅰ 第 7・8 回目授業 領域横断 保健指導論 第 6 回目授業
	授業予定	1. 小児期における成長・発達の特徴と養育・看護について説明する。（新生児・乳児）			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	子どもの成長・発達について理解する（3）		テキスト①	領域横断 保健指導論 第 7 回目授業
	授業予定	1. 小児期における成長・発達の特徴と養育・看護について説明する。（幼児・学童期・思春期）			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	遊びの機能と発達について理解する		第 4 回までの 授業資料 チャイルド マウス・ビ ジョン	
	授業予定	1. 担当年齢の遊びの展開をすることで成長・発達について説明する。 2. 遊びの展開を行う中で、子どもの安全と事故防止について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	子どもと家族を取り巻く社会を理解する		テキスト①	領域横断 家族看護 第 1～3 回目授業 母性看護学概論 第 5 回目授業
	授業予定	1. 家族の特徴とアセスメントについて説明する。 2. 保健・医療・福祉に関する法律と制度について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	小児看護における倫理について理解する			
	授業予定	1. 医療を受ける小児の権利擁護について説明する。 2. 小児の権利を守り安全・安楽となるよう配慮したうえで必要な看護行為を行う考え方を説明する。			
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100% 60%未満は再試験とする。			
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児看護学総論 第 13 版：医学書院 e テキ			

		スト
	参 考 図 書	国民衛生の動向 2023／2024 ②ナースング・グラフィカ 小児の発達と看護 第6版 (メディカ出版)
	そ の 他	
授 業 以 外 の 学 習 方 法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。
履 修 上 の 留 意 点		授業出席時間 3 分の 2 以下は、終講試験を受ける資格がありません。欠席する場合は、出席時間数の計算をしておいてください。

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	小児看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①古賀 寛史 ②今井 一秀 ③植村 篤実 ④有馬 明子 ⑤柚木 紗里奈 ⑥桂木 謙治	実 務 経 験 関 連 資 格	①医師 ②医師 ③医師 ④医師 ⑤国立病院機構別府医療センター 看護師 ⑥別府発達医療センター 看護師		
目 的	小児期に出現しやすい健康問題及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶことは看護をするうえで重要である。小児は健康障害を持ちながらも成長発達し続ける。さらに急速に変化しやすい症状をとらえ適切に看護につなげる力が求められる。本科目では、小児期に特徴的な健康障害の病態・症状・検査・治療について理解することおよび事故に対する医学的知識を身につける。引き続いて様々な状況にある子どもと家族に対しての看護を学ぶことを目的とする。				
目 標	1. 小児期に特徴的な健康障害の病態・症状・検査・治療について理解する。 2. 小児の死亡原因を理解し、不慮の事故や外傷に対する治療や処置を理解する。 3. 様々な状況にある子どもと家族への看護について理解する。 4. 小児期における主な疾患の看護について理解する。			DP への対応	
				DP 3 DP 3 DP 3 DP 3	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (古 賀)	到達目標	(1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常について理解する (2) 新生児の異常について理解する		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 染色体異常（常染色体、性染色体）について説明する。 3. 胎芽病と胎児病について説明する。 4. 新生児の疾患と低出生体重児について説明する。 5. 先天代謝異常症について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (古 賀)	到達目標	(1) 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患について理解する (2) 感染症について理解する (3) 呼吸器疾患について理解する		テキスト	
	授業内容	1. アレルギーの分類を知り小児期に特徴的な疾患を説明する。(食物アレルギー、気管支喘息、原発性免疫不全症、リウマチ性疾患) 2. 小児期の感染に関する基礎知識をふまえ主な疾患を説明する。(ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症) 3. 主な呼吸器疾患を説明する。(上気道の疾患、気管支・肺・胸膜疾患)			
第 3 回 〔 講 義 〕 (古 賀)	到達目標	(1) 循環器疾患について理解する (2) 消化器疾患について理解する		テキスト	
	授業予定	1. 先天性・後天性心疾患について説明する。 2. 乳幼児突然死症候群について説明する。 3. 口腔・消化器疾患について説明する。(唇裂・口蓋裂、食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、胆道閉鎖症、腸重積、ヘルニア) 4. 急性乳幼児下痢症・胃腸炎について説明する。(ロタ・ノロウイルス感染症)			
第 4 回 〔 講 義 〕 (古 賀)	到達目標	(1) 血液・造血器疾患・悪性新生物について理解する (2) 運動器疾患について理解する (3) 事故と外傷について理解する		テキスト	

	授業予定	1. 貧血と出血性疾患について説明する。(血友病、ビタミンK欠乏症、特発性血小板減少性紫斑病) 2. 悪性新生物について説明する。(白血病、脳腫瘍、神経芽腫、ウィルムス腫瘍) 3. 運動器疾患について説明する。(先天性疾患、脊柱側弯症、骨折、脱臼) 4. 事故と外傷について説明する。(頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症)		
第 5 回 〔講義〕 (今井)	到達目標	(1) 代謝性疾患について理解する (2) 内分泌疾患について理解する	テキスト	
	授業予定	1. 代謝性疾患について説明する。(糖尿病、低血糖症) 2. 内分泌疾患について説明する。(下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺の異常)		
第 6 回 〔講義〕 (植村)	到達目標	腎・泌尿器および生殖器疾患について理解する	テキスト	
	授業予定	1. 先天性腎尿路異常、腎・泌尿器疾患について説明する。(急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質疾患、慢性腎臓病) 2. 生殖器・外生殖器の疾患について説明する。(停留精巣)		
第 7 回 〔講義〕 (植村)	到達目標	神経疾患について理解する	テキスト	
	授業予定	1. 神経系の先天異常について説明する。(二分脊椎、水頭症、キアリ奇形) 2. 痙攣性疾患および神経・筋疾患について説明する。(てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、筋ジストロフィ)		
第 8 回 〔講義〕 (有馬)	到達目標	精神疾患について理解する	テキスト	
	授業予定	1. 発達障害について説明する。 2. 神経症圏の疾患について説明する。 3. 行動上の障害について説明する。(不登校、反社会的行動、いじめ)		
第 9 回 〔講義〕 (柚木)	到達目標	染色体異常・先天性疾患のある小児の看護を理解する		領域横断 周手術期と看護
	授業予定	1. 染色体・先天異常のある子どもの看護を説明する。(ダウン症、先天奇形、心疾患、内分泌・代謝性疾患、消化器疾患)		
第 10 回 〔講義〕 (柚木)	到達目標	急性期にある子どもと家族への看護について理解する (1)		
	授業予定	1. 急性症状(発熱、痛み、脱水、下痢、嘔吐、呼吸困難、けいれん等)のある子どもの看護について説明する。 2. 救急救命処置(誤飲・誤嚥・溺水・熱傷・蘇生法等)が必要な子どもと家族への看護について説明する。		
第 11 回 〔講義〕 (柚木)	到達目標	急性期にある子どもと家族への看護について理解する (2)		
	授業予定	1. 主な急性疾患(川崎病、ウイルス性疾患、腸重積、急性糸球体腎炎感染症等)について説明する。		
第 12 回 〔講義〕 (柚木)	到達目標	慢性的な疾患がある子どもと家族への看護について理解する		
	授業予定	1. 慢性疾患(I型糖尿病、ネフローゼ症候群、てんかん、腎臓病、喘息等)について説明する。 2. 運動器疾患について説明する。		
第 13 回 〔講義〕 (柚木)	到達目標	特別な状況にある子どもと家族への看護について理解する		
	授業予定	1. 虐待を受けている子どもと家族および災害を受けた子どもと家族への看護		
第 14 回 〔講義〕 (桂木)	到達目標	心身障害のある子どもと家族の看護について理解できる		
	授業予定	重症心身障害児の看護		
第 15 回		まとめ		

		終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第28条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 100% 60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児看護学総論 第13版：医学書院 eテキスト 系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論：医学書院 eテキスト		
	参考図書	国民衛生の動向 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 第6版 (メディカ出版)		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患については疾病論Vで学習する。		

科目区分	専門分野	科目名	小児看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①甲斐有美子 ②羽田野 京子	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・看護師養成所教員経験 ②病院における看護師経験、別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	人間のライフサイクルの中で、小児期は最も成長発達の著しい時期であり、健康障害や苦痛を最小限にすることは、健やかな成長発達への支援として重要である。また、健康障害を持ちながら成長発達する小児を理解し、養育環境をより安定したものとなるための知識を深めることが看護師の役割として求められる。本科目では、様々な状況にある子供とその家族、発達段階に応じた看護をするために必要な看護技術と対象を理解し看護を展開する考え方について修得する。				
目 標	1. 様々な状況にある子どもと家族への看護について理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術について理解する。 3. 健康障害をもつ子どもの事例展開の方法を理解する。				DP への対応 D P 3 DP 3 DP 3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	病気・障害をもつ子どもと家族の看護について理解する。		テキスト①	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 病気・障害が子どもと家族に与える影響を説明する。 3. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護について理解する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	子どものアセスメントに必要な技術を理解する。①		テキスト①	小児看護学概論 第2回目授業 第3回目授業
	授業内容	1. バイタルサイン測定について説明する。 2. バイタルサイン測定技術を理解する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	子どものアセスメントに必要な技術を理解する。②		テキスト①	臨床薬理学 第2回授業
	授業予定	1. 身体計測の技術について理解する。 2. 身体的アセスメントについて理解する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解する。①		テキスト①	
	授業予定	1. 子どもにとっての検査・処置体験について説明する。 2. 与薬における看護の実際について説明する。 3. プレパレーションについて説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解する。②		テキスト①	
	授業予定	1. 与薬の技術について理解する。 2. 輸液管理について理解する。 3. 抑制について理解する。			
第 6 回 〔演習〕	到達目標	検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解する。③		テキスト①	
	授業予定	1. 検体採取を行うための技術について説明する。 2. 呼吸症状の緩和における看護の実際について説明する。 3. 吸入・吸引・採尿バック・採血時の固定について理解する。			
第 7 回 〔演習〕	到達目標	検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解する。④		テキスト①	
	授業予定	1. 小児期の救命処置について理解する。 2. 看護技術のまとめ			
第 8 回 〔演習〕	到達目標	小児における看護過程の展開について理解できる。		テキスト①	
	授業予定	1. 対象となる小児と家族を理解するための考え方が分かる。			
第 9 回 〔演習〕	到達目標	事例において 看護過程の展開ができる。① (情報収集・アセスメントの視点がわかる)		授業資料	

	授業予定	1. 事例展開方法（気管支喘息）を説明する。 2. 子どもを理解するための情報収集の視点やアセスメントの視点が分かる。		
第 10 回 〔演習〕	到達目標	事例において 看護過程の展開ができる。② (アセスメント・計画・実施・評価)	演習	
	授業予定	1. 各自で情報収集し、情報整理の考え方が分かる。 2. アセスメントの視点に沿って取り組み考え方が分かる。 3. 子どもに対する看護計画・実施・評価の視点が分かる。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	症候をとらえ実践につなぐ思考が理解できる。①	配布資料	小児看護学概論 第 2 回目授業 小児看護方法 I 第 1 2 回授業
	授業予定	1. 子どもの成長・発達段階に応じて症候の表出が異なることを説明する。 2. 症候の観察及び問診、緊急度についての考え方を説明する。		
第 12 回 〔演習〕	到達目標	症候をとらえ実践につなぐ思考が理解できる。②	配布資料	
	授業予定	1. 事例を通して思考の整理ができる。		
第 13 回 〔演習〕	到達目標	症候をとらえ実践につなぐ思考が理解できる。③	配布資料	
	授業予定	1. 事例を通して思考の整理ができる。 2. グループで話し合い、思考を深めることができる。		
第 14 回 〔演習〕	到達目標	症候をとらえ実践につなぐ思考が理解できる。④	配布資料	
	授業予定	1. 事例を通して思考の整理ができる。 2. グループで話し合い、思考を深めることができる。 3. クラスで共有し、思考を深めることができる。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規程第 28 条に規定する評価基準に準ずる。 方法：終講筆記試験 50% 看護過程レポート 10% 臨床判断レポート 30% 技術の課題 10% 60%未満は再試験を行う。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児看護学総論：医学書院 e テキスト		
	参考図書	②ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 第 6 版 (メディカ出版)		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		本単元では小児看護における看護技術を学ぶにあたって基礎看護技術における知識は熟知しておく必要がある。 また、看護過程の展開、臨床判断では子どもの発達段階および特徴を理解し、疾患の理解と看護について理解しているとして授業を進めるため復習をしておくこと。		

